

編集発行責任者 飯田 誠

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL:<http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>

INDEX

01. 診療科紹介【腎臓・高血圧内科】
02. 診療科紹介【腎臓・高血圧内科】、診療科紹介【循環器内科】
03. 診療科紹介【循環器内科】、看護部長就任のご挨拶
04. AI搭載の最新320列CTを2台体制で運用開始～より安全・高精度な検査へ～

診療科紹介【腎臓・高血圧内科】

私ども東京慈恵会医科大学 内科学講座 腎臓・高血圧内科は、1958年に創設された第二内科がその起源となり、その後、現在の腎臓・高血圧内科に改組されました。日本腎臓学会の創設、我が国における『透析導入基準』の策定、IgA腎症の疾患概念の国内導入、全国に先駆けて経皮的腎生検や腹膜透析を開始、世界初の腎臓再生、腹膜透析+血液透析併用療法を世界で初めて開始するなど、常に日本の腎臓病学を牽引する立場にある国内最大規模の腎臓病教室です。

葛飾医療センターには、内科専門医、腎臓専門医、透析専門医、腹膜透析専門医、腎移植専門医が常勤しておりますので、高血圧や電解質異常に加え、あらゆる腎疾患や腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）への対応が可能です。とくに腹膜透析は国内に約1000あるとされる実施施設のうち、葛飾医療センターは四大施設の一角に数えられるまでに成長して参りました。わざわざ都心まで出ていなくても、質の良いものがなんでも揃っていて地元の皆さまに愛される腎臓病診療の百貨店でありたいと思っております。風通し良く、気軽になんでも相談して頂けるような存在でありたいと思っておりますので、腎臓病治療の拠点として、当科をご活用頂けましたら幸甚です。



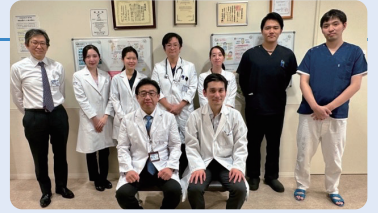
腎臓・高血圧内科
診療部長
丹野 有道

◆慢性腎臓病（CKD）診療

①当院は区東北部CKDネットワークの中核医療機関です

私どもが発起人となって東京都区東北部（葛飾区・足立区・荒川区）エリアの腎臓専門医が集まり、腎臓専門医が居る医療機関と、かかりつけ医などが、図1の様な体制で協働し治療を行う「区東北部CKDネットワーク」が立ち上がりました（事務局：東京慈恵会医科大学葛飾医療センター内）。CKD対策情報、紹介基準や講演会などの情報を掲載しておりますので、詳しくはホームページ（<https://ku-touhokubu.tokyo>）をご覧ください。

②当院は葛飾区で唯一の腎生検実施施設です
CKDの原疾患を確定診断するためには腎生検が必須ですので、診断をつけて治療方針を決定したら、紹介元の先生へお戻した上で、連携しながら診療を進めていきます。



◆災害対策

当院は、東京都区部災害時透析医療ネットワークにおける区東北部（葛飾区・荒川区・足立区）ブロック長および事務局長が在籍しており、二次医療圏の中核病院として、災害や感染症流行時も安全に透析を受けて頂けるよう地域の医療機関との連携にも力を入れています。

図1



診療科紹介【循環器内科】

2023年4月に葛飾医療センター診療部長に就任し、早くも3年が経過いたしました。当科は地域に根ざした専門病院として、東京都CCUネットワークに加盟し、24時間365日体制で急性期医療を提供しております。大学病院として高度な医療を地域の皆様にお届けできるよう努めております。

昨年より、葛飾区内の他の東京都CCUネットワーク加盟施設3か所（イムス東京葛飾総合病院、イムス葛飾ハートセンター、東部地域病院）および葛飾区内で循環器を



循環器内科
診療部長
南井 孝介

標榜する約40の施設と連携し、「葛飾区心不全ネットワーク」を立ち上げました。年2回の勉強会を通じて、他の病院やクリニックの先生方との円滑な医療連携を目指しております。数か月以内には、患者さんがご自宅近くの加盟施設を地図上で確認できるホームページを公開する予定です。

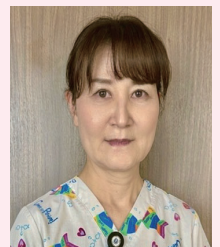
これまで、心臓カテーテル検査やPCI(経皮的冠動脈インターベンション)、高周波カテーテルアブレーション、ペースメーカー挿入といった治療のほか、心臓CT、心臓MRI、心筋シンチグラムなどの原因検索検査を行ってまいりました。今年度からは、より低侵襲で冠動脈の狭窄を外来で評価可能なFFR-CTを導入し、より正確かつ迅速な治療提供を目指しております。こちら6月中旬の運用開始を予定しております。

また、4月より心不全患者さんの運動療法に必要なCPX(心肺運動負荷試験)も導入いたしました。まずは入院患者さんより運動療法を開始してまいります。今後も、葛飾区および周辺にお住まいの皆様のお役に立てるよう、一層努力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



看護部長就任のご挨拶

今年度より、山下正和看護部長の後任として、葛飾医療センターの看護部長に就任いたしました。私は、慈恵医大附属青戸病院に新人として入職し、2012年葛飾医療センターリニューアルオープンにも携わらせて頂き、2020年度附属病院に転勤しました。この度、6年ぶりに葛飾医療センターに戻り、新たな役割でのスタートとなりました。葛飾医療センターのビジョンでもある「地域と共生し、進化・創造し続ける病院」として、地域の皆さまに信頼される病院を目指せるように、任務を遂行していきたいと思っております。



看護部長
小島 順子

医療・看護界は、2040年問題にむけた課題に備えていかななくてはなりません。そのなかで、医療現場は病院完結型から地域完結型へ、地域包括ケアシステムの強化が求められます。当院は、患者さん・ご家族の「住み慣れた地域・自宅で暮らしたい」を支援するために、PFM(Patient Flow Management)を導入し18年経ちました。PFMの根底を支えているのは、何より地域との繋がりです。より一層地域との連携を強化できるように、訪問看護ステーションとの相互研修や教育の受け入れ、認定/専門看護師の同行訪問・電話相談もより強化していきたいと思っております。

看護部は『看護のチーム力で「暮らす」「生ききる」を支える』を目標に掲げております。そのためには、看護師個々の、患者さんを生活者として捉える力を高め、また、患者さん・ご家族の思いに寄り添う感性にも磨きかけられるように、看護教育へも力を入れていく所存でございます。



今後とも、変わらぬご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

AI搭載の最新320列CTを2台体制で運用開始 ～より安全・高精度な検査へ～

・AI技術による超低被ばくと高精細画像で、心臓・脳神経領域の診断を強力にサポート

昨年度5月に導入し安定稼働を続けているキャノンメディカルシステムズ社製『Aquilion ONE/INSIGHT Edition』（図1）に加え、2026年5月より2台目の運用を開始しました。本装置は、AI技術（Deep Learning）を用いた最新の画像再構成技術を搭載し、従来よりも「低被ばく・短時間・高画質」な検査を実現しております。特に以下の2領域において、先生方の日常診療に大きく寄与できるものと確信しております。

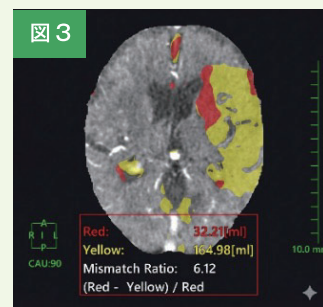
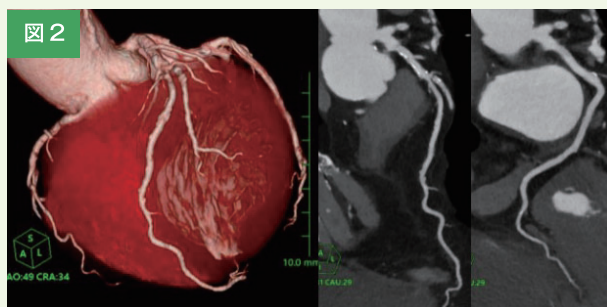


1. 循環器領域:高心拍・不整脈症例でも安定した冠動脈描出

新搭載のモーションアーチファクト低減技術「CLEAR Motion」により、高心拍や不整脈のある患者さんでも、冠動脈のブレを劇的に抑えた撮影が可能です。また、超解像技術である「Precise IQ Engine :PIQE」が、ステント内腔や石灰化病変を極めて高精細に描き出します（図2）。さらに、本年6月からは新たにFFR-CTの運用も開始いたします。AI技術を活用した画像再構成技術は、ノイズを極限まで抑えた撮影が可能となり、冠動脈だけでなく、従来はMRI（CMR）で主に評価されていたECV（Extracellular Volume:細胞外液分画）解析についても、CTでの評価が可能となっています。

2. 脳神経領域:全脳を1回転でカバー・迅速パーフュージョン検査

320列（撮影範囲160mm）の検出器により、1回転で脳全体をカバーした撮影が可能です。従来からの血管走行把握、脳動脈瘤の精査に加え、急性期脳卒中における4D-CT（全脳パーフュージョン解析）（図3）では、組織血流の状態を短時間で可視化でき、血栓回収療法が必要かどうかを迅速に判断する場面など、時間との勝負となる治療に役立ちます。特に、体内デバイス等の影響によるMRIでの精査が困難な患者さんについては、代替手段としてのご活用をぜひご検討ください。



その他、本装置は、金属アーチファクト低減技術やバイオプシー・ドレナージ等のインターベンション支援機能も強化されており、整形外科や外科をはじめとした各科のニーズに対し、より安全かつ高精度な処置をサポートできる環境が整っております。

今後も本装置の導入を機に、地域医療の質をさらに高めていく所存です。地域の先生方との連携をさらに深め、患者さんにとってより良い医療の提供に努めてまいります。ぜひお気軽にご相談・ご利用ください。